

## 秋ぎく型スプレーギクの栽植様式及び仕立て本数

( 園試 野菜花き部・高冷地開発センター )

### 1 背景とねらい

本県のスプレーギク栽培においては、単収4～5万本を目標としている。しかしながら、先進地ではこれ以上の単収を上げている例があり、切花品質と収量性を考慮した、本県における適正な栽植様式及び仕立て本数を検討する必要がある。また一方で、従来品種と草姿の異なるヨーロッパ系スプレーギクが県内でも導入されつつあるが、これらの品種についての適正な栽植様式及び仕立て本数については未検討であった。そこで秋ぎく型スプレーギクの従来品種及びヨーロッパ系品種について、収量性の向上を目的とした栽植様式及び仕立て本数について検討したところ、知見が得られたので参考に供する。

### 2 技術の内容

#### (1) 栽植様式及び仕立て本数

ア 栽植様式は、畦幅180 cm, 株間15cm, 条間15cm(中央の条間のみ30cm)の中抜き6条植とする。この時の10 a 当たり栽植本数は22,222本である。

イ 仕立て本数は、すべて株当たり3本とする。

ウ 単収は品種により異なるが、58,000～63,000本程度となり、従来の県目標に対して3～4割程度の増収が期待できる。

(2) 適応地域 県下全域

(3) 適応作型 雨よけ栽培

### 3 指導上の留意事項

(1) 当技術は秋ぎく型スプレーギク一般に適応可能であるが、風車系品種については密植による切花品質の低下が認められるので、仕立て本数を減らし採花本数を少なくする。

(2) 老化苗、不適正な定植期、養水分の過剰及び高温条件は草姿を乱す原因となりやすいので適正な管理に留意する。

(3) 摘心及び仕立て(整枝)時期・方法は、栽培技術指針に準じる。

#### 4 試験成績の概要

##### 【試験区の構成】

試験区名	畦幅*	株間	条間	条数	栽植本数	仕立本数	採花本数
	(cm)	(cm)	(cm)	(本)	(本/10a)	(本/株)	(本/10a)
A	180	12	15	6	27,778	2	55,556
B	"	15	"	"	22,222	"	44,444
C	"	"	"	"	"	3	66,667
D	"	18	"	"	18,519	"	55,556
E	"	15	20	4	14,815	"	44,444

注) 6条植はいずれも中央の条間のみ30cmとした。\*通路50cmを含む。

表1 栽植様式及び仕立て本数別良花率割合 (単位: %)

品 種	試験区				
	A	B	C	D	E
ローズクイーン	94.4	86.1	91.7	94.4	79.2
ティッパ°	91.7	88.9	91.4	91.7	91.7
エハ°	100	100	94.4	94.4	95.8
サマークイーン	100	100	94.1	100	100
スージー	88.9	88.9	93.3	52.9	91.7

表2 栽植様式及び仕立て本数別有効採花本数 (単位: 本/10a)

品 種	試験区				
	A	B	C	D	E
ローズクイーン	52,445	38,266	61,134	52,445	35,200
ティッパ°	50,945	39,511	60,934	50,945	40,755
エハ°	55,556	44,444	62,934	52,445	42,577
サマークイーン	55,556	44,444	62,734	55,556	44,444
スージー	49,389	39,511	62,200	29,389	40,755